

種目【図画工作科】

書名 項目	図画工作	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○①各ページ下「ふりかえり」により、学習を通して何ができるようになったか自覚することができる。②「ぞうけいのひきだし」に表現技法等がわかりやすく書かれている。③巻末「まなびのしりょう」に材料や用具の使い方をシンプルに示している。④「ちいさなびじゅつかん」で生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを示している。などにより造形的なものの見方や考え方、鑑賞の方法等、知識や技能が身に付くよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○①題材のめあてに対応したキャラクターが児童の学びを深めるためのキーワードを簡潔に示している。②製作中の児童のつぶやきを示され活動のプロセスを示している。③児童の手元の写真により、材料の質感等が感じられ、深い学びに結びつく。④児童が試行錯誤し製作する姿が示されている。⑤友達と協働する活動を多く提示している。などにより造形的な見方や考え方を深め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す工夫がされている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○①アップとルーズにより、意欲を喚起し見通しをもって取り組める活動写真②友達との関わり、学び合いを意識した題材設定③つくりだす喜びや楽しく豊かな生活を創造する姿勢が感じられる表情豊かな写真資料④対話により学びを深める児童のつぶやき⑤「つながる造形」での身近な作品から新しい表現の紹介 などにより、図画工作科の学びを通して楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う内容になっている。 ○各巻の表紙裏に「図画工作を学ぶみなさんへ」のメッセージがあり、発達段階に応じて生活や社会の中の形や色、美術や美術文化などと豊かに関わっていく学習であることを明示している。 </p>	
資 料	<p> ○三つ折りのページでは幅の差があり、扱いやすい資料である。 ○用具の使い方については使用する場面の写真が掲載しており、わかりやすい。 ○児童の意欲を喚起する色鮮やかな写真が多い。 ○日本の文化や地域特有の文化、題材に関連した楽器等の資料が掲載され、生活の中の美術を学ぶことができる。 ○表紙は、題字が身近な材料で表現され、作品から絵の具のにじみやかすれなど、子供の手の感覚が伝わり、児童の学習意欲を向上させ豊かな創造性を培う工夫がある。 </p>	
表 記 表 現	<p> ○①育てたい資質・能力に対応したキャラクターが的確なアドバイスを伝えている。②「! あんぜん」により、注意喚起のポイントが示されている。③ページの決まった位置に「材料」が示され、見通しをもって主体的に学ぶことができる。④特に大切な内容は赤で印字、下線で強調され、わかりやすい。⑤色・道具・形の英単語表記があり、他教科との学びに接続できる。⑥低学年では話しかけるような言語表現が多く、親しみやすい。など児童の多様な学び、深い学びの実現を促す表記・表現がある。 </p>	
総 括	<p> ○全体的に画面が明るく、教科書を広げるとワクワクするような紙面の構成になっている。 ○文の改行、写真や図の重なり、配色、配置などにより障害のある児童も含む、より多くの児童にとってわかりやすい工夫がある。造形遊びでは、地域や児童の実態に応じて使う材料が選択できる配慮がある。 ○「あわせて学ぼう」では教科間の接続を示し教科横断的な学習を支えている。また「片付け」の場面も示し、環境への配慮、公共の精神などの道徳性を養うための工夫がある。 ○用具の扱いについて具体的な場面ごとに紹介され、安全な活動を保障する内容である。 ○「できたらいいな」ではものづくりの価値を伝え生活を豊かにする造形や美術の働きを実感することができる工夫がある。 ○QRコードが掲載され、動画等で手順や用具の使い方がわかる工夫、ICTを活用した授業にむけた工夫がある。 </p>	

種目【図画工作科】

書名 項目	<h1>図画工作</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 1 1 6 日 文 </div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○①「使ってみよう材料と用具」では、各道具の使い方のみならず、思考を促し、いろいろ試してみたいくなるしかけがある。②発達段階に合わせて、児童が自分で参考にする際に使うことができる資料の工夫がある。③技能についてのアドバイスが分かりやすく書かれている。④「つくりかた」に製作の活動写真と吹き出しの言葉があり、児童の思いを表現するためのヒントになる。など、児童が自分の感覚や行為を通して造形的な視点について理解できるよう、工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○①各題材で製作途中の児童の活動写真が多く掲載されている。②試行錯誤し、つぶやく児童の言葉が掲載されている。③「ちろたん」というキャラクターが色や形について様々なアドバイスを通して活動のヒントを示している。④手や体を使ってさわ心地や温度などから発想を豊かにしたり、色や形に関心をよせたりできるような題材の紹介がされている。⑤友達と話し合い、学び合いながら表現する資料が多く使用されている。⑥「みんなとつながる」(3・4年上)、「地域とつながる」(5・6年上)など地域の方と協働したり、地域に学びを紹介したりする、社会に開かれた教育課程の実現を目指す取組が紹介されている。など、児童の見方・考え方を深め思考、判断力、表現力を育成するための工夫がある。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○①写真は児童の目線で撮影されたものが多い。②各本の5ページに「たのしいなおもしろいな」～「見つめて広げて」のメッセージがあり、簡潔に学びのめあてが書かれ、意欲的に学習に向かうことができる。③「外国の友達の絵」など国際理解につながる学習、多様性への配慮がある。④児童作品を学校や地域の施設に展示する事例が紹介されている。などにより学習への意欲を喚起し、発達段階に応じて図画工作科の学習を通して広く社会と交流し、主体的に活動する力を涵養する工夫がある。 </p>	
資 料	<p> ○「教科書美術館」には身の回りのものから形や色の面白さを見つけられる工夫がある。 ○各題材で作者の言葉が掲載され、作品の見方や鑑賞の観点を学ぶことができ、よさや美しさを感じ取ったり考えたりするためのヒントになる。 ○「ひらめきポケット」では、新たな見方や面白さを主体的に発見するための充実した資料が掲載されている。 ○1・2年上巻、3・4年上下巻などに自然物、人工物など作品以外の多彩な資料があり、生活を美しく豊かにする造形の理解や、色や形など造形的な見方・考え方を働かせるための工夫がある。 ○巻末の材料と用具の基本的な扱い方の説明の図版がわかりやすい。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○①育てたい三つの資質・能力をマークで示し、めあてをもって学習できるようになっている。②3観点のめあてのマーク、「気をつけよう」、「かたづけ」、使用する用具のマークなどわかりやすい記号・表記がページの同じ位置にある。③題材名がその活動を想起させ、児童のワクワクする心を引き出すデザインである。など配慮の必要な児童の学習を含め、児童の主体的な活動を促す分かりやすい表記・表現である。 </p>	
総 括	<p> ○文字の大きさが適切で、全体的に見やすく、わかりやすい構成である。 ○材料や用具の使い方について気をつけるべき事項と片付けの方法が簡潔に明記され、安全・防災面の配慮が十分にされている。 ○子供の心が動く造形遊びと鑑賞活動のページが特に充実している。 ○児童自らの手で生活を豊かにすることができる美術の働きが実感できる工夫がある。 ○保幼小の連携した学び、算数科、国語科などとの教科横断的な学びができる題材配列の工夫により児童の様々な学びをつなぐ工夫がある。 </p>	